

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 自分で考え進んで学び続ける子【知】
- まちやみんなどの関わりを大切にす子【徳 公】
- 夢や未来の創造にたくましくチャレンジする子【体 開】

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

- <言語能力>
- <問題発見・解決能力>
- <自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

- ・教科書や資料等から必要な情報を取り出し、それを基に思考し、対話や議論を通して思考を整理・再構築し、表現する力
- ・様々な対象・事象の中から問題を見出し、解決方法を探し、計画・実行する。さらに、そこから振り返りを行い、次の問題発見・解決につなげていく力
- ・「なりたい自分」に向けての各活動における自己の取組や成長を振り返り、課題を修正する等自己調整しながら自己の成長に必要なことに気づき、成長へとつなげる力

中期取組目標

- 子ども一人ひとりの「学び」の高まりと自尊感情の醸成を大切にします。
 - ・「人 もの こと」との関わりを大切にし、主体的に問題を見出し友達と協働して解決する力を育てます。
 - ・一人ひとりの自己肯定感を高め、思いやりの心を育みます。
 - ・健康的な生活習慣を形成し、ねばり強く最後までやりぬく心と体を育てます。
 - ・地域や社会とつながる体験や本物との出会いを通して、自己の成長を見つめる子を育てます。
- 子どもを真ん中にした「チーム奈良」の連携・協働を推進します。
 - ・家庭、地域、各関係機関等との連携を図り、「チーム奈良」で一人ひとりの子どもの成長を支えます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①子ども達に育成したい資質・能力を明確にした授業を実現するために、授業研究の方法や内容を工夫し、子どもの具体的姿で語れる研究会の充実を図る。②日常からの授業の見合いやブロック学年研等を活用して授業を見合える機会を設定し、全教職員で授業改善に努める。③各研究会や学習研究部からの発信を行い、各自の授業力向上への意識を高める。
担当	学習研究部

学力向上に関わる本校の状況
○自分の考えを発表するだけでなく、そのように考えた根拠についても伝える意識が育ってきた。
▲話し合っはいても、学びの価値(ゴール)に向かう学びにまで深まることは少ない。 一学びの価値につながる問い 一核心に迫る気付き
▲修正や改善を重ねながら、最適解や納得解を導き出し、よい学び、粘り強くゴールに向かって学び進む力を育んでいく必要がある。 一学習課題を解決する意味や価値について捉える力 一どこまでが分かって(できて)どこから分らない(できない)のかを認識する力
○必要に応じてICTを効果的に活用できる児童が増えてきた。
教師 ・学びの価値(ゴール) 迫る、意味のある「学び合い」を実現させるために、単元の価値や最後になってほしい子どもの姿を明確にもつ意識が高まった。
・主体的に対話的で深い学びを実現させるためには、読み取った内容を吟味したり、既存の知識と関連付けながら自分の考えを構築したりするための「言語能力」を獲得させていく。 一根拠をもとに自分の考えをもてる授業 一ゴールに向かって粘り強く学びたくなる授業

今年度の目標
ゴールに向かって学び合える子の育成 ～根拠をもとに自分の考えを伝え合う力～
目標を実現するための具体的行動プラン
①子ども達に育成したい資質・能力を明確にした授業を実現するために、授業研究の方法や内容を工夫し、子どもの具体的姿で語れる研究会の充実を図る。 一低学年・中学年・高学年の3部会ごとに教科を決め、部会で知恵を出し合い、学習経験や生活経験をもとにゴールに向かって学び合える子を育成するための、単元や授業について研究を進める。
②日常からの授業の見合いやブロック学年研等を活用して授業を見合える機会を設定し、全教職員で授業改善に努める。
③各研究会や学習研究部からの発信を行い、各自の授業力向上への意識を高める。
上半期
下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
思いやりの心	①道徳授業について学年研で話し合い授業改善を図る。②てなら満足や月1回程度のたてわりあそびを行い、異学年交流を行う。③たてわり活動以外でも他学年とのかわかりができるようにカリキュラム上に位置づけ、具体的な計画を立て、実施していく。④あいさつが増えているように、保護者や地域の方と協力した取組を行うなど、他者との関わりを大切に活動を増やしていく。
担当	道徳部・児童指導部

豊かな心に関わる本校の状況
○親しい関係の人とは、学年に関係なくあいさつしあうことができる。
○道徳の学習では、良い考え、良い行いと考えることが発言できる。
▲道徳の学習で、なかなか本音で語り合えない。そのため、日常生活に道徳的価値を落とし込めない。
○学年関係なく、困っている子へ声をかけたり、下学年の子に優しくしたりできる児童が多い。
○「人には優しくしたい」と思っている児童が多い。
▲人とのかわかり方・コミュニケーションのうまいといった感じられる経験が少ないためか、進んで人とのかわりをもったり、行動したりすることができない児童もいる。
▲自分だけの視点で物事をとらえ、行動してしまう。
○仲のよい友達のように行いに気がつく。
▲友達が頑張っている姿、よい行いをしている姿に気がつくにくい。
▲視野を広げようとしていないため、周りにいる人や困っている人に気づかない。
上半期
下半期

今年度の目標
自分の周りへ視野を広げて考え、思いやりの気持ちを行動に移すことができる子を育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン
①道徳授業について学年研で話し合い授業改善を図る。②てなら満足や月1回程度のたてわりあそびを行い、異学年交流を行う。③たてわり活動以外でも他学年とのかわかりができるようにカリキュラム上に位置づけ、具体的な計画を立て、実施していく。④あいさつが増えていくように、保護者や地域の方と協力した取組を行うなど、他者との関わりを大切に活動を増やしていく。
上半期
下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな心と体	①身体を動かすことの「楽しさ」を体感させるため、児童会活動を活用し、様々な遊びの紹介や身体を動かす機会を設ける。休み時間の外遊びを増やし運動の良さを伝え、②学校保健委員会で基本的な生活習慣をテーマに取り上げ、児童保健委員による話し合いや調査、意識喚起をする。③養護教諭が学年・全校への保健指導を定期的、計画的に行い、基本的な生活習慣の意識向上を図る。④栄養士によるバランスメニューの活用や給食委員会の活動を通して、栄養バランスの良い食事を中心とした食育活動に取り組む。
担当	体育部・保健安全部

健やかな体に関わる本校の状況
・運動能力について ▲体育的行事を通して、実行委員の児童が運動が「楽しい」と感じる企画を考え、運営し、内容や取組の充実を図った。だが、継続した取組ができなかったため、まだまだ、校庭に出て遊ぶ児童が少ないと感じる。 ⇒継続的に身体を動かす良さと楽しさを発信していきたい。
▲コロナ禍により、瞬発力や敏捷性といった体力の低下が課題とされる。(体力テストの結果から)
・保健について ▲学校保健委員会で「けがの防止」に取り組んだ。令和5年度と比較し、けがの件数は減ったが、依然校内での行違等が多い現状がある。
▲感染性胃腸炎の流行が現れ、児童は手洗いなどの衛生管理が不十分である。ハンカチ・ティッシュの携帯、手洗い・咳エチケットなど、基本的な生活習慣をより一層身に付けていく。
・食育について ▲栄養士による給食時間の巡回指導や教科等連携の食育実施、食育だよりの発行により、食や健康への意識づけを行った。しかし、食や健康への意識の個人差は大きいように感じる。残食率は減少傾向にあるものの、献立によっては残食率の高いものも見受けられる。
上半期
下半期

今年度の目標
運動(身体を動かすこと)が「楽しい」と感じる子を育てる 基本的な生活習慣を意識できる子を育てる
目標を実現するための具体的行動プラン
①運動(体を動かすこと)が「楽しい」と感じる子を育てる ①身体を動かすことの「楽しさ」を体感させる ・たてわり遊びを活用し、外遊びの機会を設ける ・身体を動かす集会(長縄集会等)を企画する ②学校保健委員会 ・「健康的な生活」をテーマに基本的な生活習慣を意識付けする学校保健委員会を運営する ・保健委員会が調査結果をもとに保健集会を行う ③養護教諭の関わり ・保健だよりを定期的に発行する ・学習タイムやお昼の放送等で傷病の予防について保健指導を行う ④食育活動 ・児童の食生活の実態把握 ・食に関する指導に係る全体計画に沿った食に関する指導の組織的・計画的な実施・バランスメニューの実施、栄養士のチーム・ティーチングによる食に関する指導の実施 ・食育だよりに合わせて食育情報の充実
上半期
下半期